

KWU

図書館だより

Library News

No.15 2011



図書館ニュース

図書館ホームページを活用しよう 他

特集

- 和本の姿 —和本の装訂名称について—
- レファレンスPOP：これからは見える図書館

Kyoto Women's University

Contents

- **図書館長だより**
 - キンドルと「アテネの学堂」 図書館長 御領 謙…………… 1
- **図書館ニュース**
 - ◇図書館ホームページを活用しよう…………… 4
 - ◇図書館の電子情報を活用しよう…………… 6
 - ◇電子ブックを利用しよう…………… 8
 - ◇図書館資料展観…………… 9
- **特集 1**
 - 和本の姿 —和本の装訂名称について—**
図書館司書課程教授 山中 康行…………… 10
- **特集 2**
 - レファレンスPOP：これからは見える図書館**
図書館司書課程専任講師 桂 まに子…………… 14

表紙について

書名:京都圖繪
出版:大禮記念京都大博覧會事務局、1928年
著者:吉田 初三郎
請求記号:291.62/Y86



これは、1928(昭和3)年に京都で開催された「大禮記念京都大博覧會」の案内図です。東会場(岡崎公園一帯)・西会場(千本丸太町)・南会場(恩賜博物館)に加え、京都の様々な名所が描かれています。

図書館長だより

キンドルと「アテネの学堂」

図書館長 御領 謙

昨年はこの欄に「キンドルに思う」という一文を草しました。今回は認知心理学の立場から読書と情報の電子化と図書館の問題について考えてみます。

人間は自らの心的活動の生成物、つまり考えや思いや創造した各種表象を、絶えず外部に表出しつつ生活しています。そして文字や種々の視覚的記号、画像などを自由に操り、その心的活動の成果を時空を超えて社会に提示することが出来ます。また、表出と同時に見たり聞いたりという認識活動を行っています。文字を中心とする視覚的情報の場合には、読むという行為を介して他者の心的活動の成果を読み取ります。そして心的活動の成果を文字で伝達する手段の代表が書籍です。

一冊の本に限ってみれば読書は著者と読者の間の一方向的な知識伝達に見えますが、著者もまた他の著者の読者の一人です。そして世界中に存在する膨大な数の書籍の総体は、人類がこれまでに蓄積して来た心的活動の集合体といってもよいでしょう。一冊の本を読むということは、時間と空間を超えて存在する、人類の心的活動の集合体の一部に接することであり、また一冊の本を書くということは、その集合体に新しい心的活動の成果を書き加えることです。このような集合体は主として紙の書籍という物体として存在してきました。しかし、人類が蓄積して来たその物体としての山はさほど重要ではなく、その山の伝える情報・知識の山こそが重要であるのは言うまでもありません。人類が作り上げたこの壮大な情報・知識の山を、ここでは仮に「全知識集合」と呼ぶことにします。

さて一冊の書籍は窓に喩えることが出来ます。読書とはその窓を通して上に述べた「全知識集合」の一部を眺めることにあたります。昔ある人は、書籍に記された文字や記号を、この場合の窓ガラス上のシミに喩えました。私たちは窓を通して外の世界をみるとき、ガラス上のシミに気づくことが少ないように、ページ上の文字や記号自体をあまり意識せずに、その背後にある世界を直接的に認識します。いわば、印刷された紙面は透明であると言えるのです。事実私たちは本を夢中になって読んだあと、文字の字形(フォント)やミスプリなどに気づき、記憶していることはほとんどありません。

書籍が見せてくれる意味的世界に到達する為には、文字や記号自体の物理的特性、およびそれらを記す紙などの媒体自体はそれほど重要ではありません。同じ文字であってもさまざまな字形がありますし、歴史的に見ても文字を伝える媒体は様々に変化し、木片であったり、パピルスであったり、羊皮紙でもありました。また書籍の形態も巻物から、冊子体へと変化してきまし

た。そして今私たちの時代に電子書籍が出現したのです。また、電子書籍のみならず、私たちの発するあらゆる情報がたちどころに電子化可能となりました。すでに私たちはいろいろな機会に、書籍ではなく目には見えない電子情報を媒介として、端末画面を見ながら「全知識集合」と相互作用しあっています。現在は世界中の巨大図書館がその蔵書を電子化することを試み、我が国でも国会図書館がその蔵書の全ての電子化に取り組んでいます。誰も正確な予測はできませんが、紙の書籍もあと四半世紀は利用され続けるだろうという人もいます。しかしもっと先には、人類の築いた物としての書籍の山は歴史的資料としての価値しか残らないかもしれません。私にいわせれば、書籍は「全知識集合」を眺める窓であり、文字は単にその窓ガラスのシミのようなものなので、紙媒体から電子媒体への変化が、読み書きという知的活動の本質を変えることはなく、この活動に大きな弊害をもたらすであろうとはとても考えられません。この変化は否応なく人類の知的活動の在り方を大きく変え始めています。

ところで、唐突ですが、「私」とは何でしょう。私は「私」とは生まれてから現在までの記憶の集合だと思っています。もし私たちが記憶を全く無くしてしまうと、もはや「私」という存在はなくなってしまふ、つまり私たちが自分の脳あるいは心に蓄えてきた情報・知識こそが「私」に他ならず、「私」とは「個人的知識集合」であるといえるのです。「私」の中のある重要な知識が欠けると自分が誰であるかさえわからなくなります。必要な知識がなければ、自分の周りで起こっていることを理解できませんし、上手く生きてゆくこともできません。読書に関していえば、必要な知識がないという状態は「全知識集合」を覗き見る「本という窓」のガラスが曇ったままの状態に喩えられます。知識の程度に応じて窓ガラスの透明さが決まるのです。知らない外国語の文章は理解できませんし、物理学の知識なしでは物理学の論文は理解できません。ちなみに、ここで言っている知識とは「全知識集合」の部分集合をさしており、「個人的知識集合」にこの部分集合が含まれている程度に応じて理解が可能となるのです。つまり「全知識集合」と「個人的知識集合」の共通部分の大きさにしたがって理解の範囲が決まるのです。

知識が無いと理解ができないとすると、知らないことは永久に理解できないこととなります。しかし実は「個人的知識集合」内の部分集合は、関連しあう情報が一定の構造をもって集結しているものと考えられます。新規な情報であっても、当該知識集合の構造と関連の深い情報は一定の心的努力の結果、その集合内に結合されてゆくと考えられるのです。そして新規知識の質や量によっては元の構造自体も変容してゆきます。読書もその一例ですが、「全知識集合」の一部を「個人的知識集合」に取り組んでゆくこの力動的な過程こそが、認知心理学という記憶ないしは学習の過程にほかなりません。ついでにいうと、電子化の問題は両者をつなぐインターフェイス選択の問題なのです。

あらゆる情報の電子化が進行した状態をさして、ユビキタスという概念が用いられることがあります。神仏の恩寵が遍く地球上を充たすがごとく、情報が遍く地球上を充たしている状態

を言います。人類の共有する「全知識集合」がいつも空気中にただよっていて、「いつでも、どこでも、だれでも」シームレスにアクセスでき、また自らも新しい情報を書き加えていける状態がユビキタスな状態です。私はこの一年間 Kindle や iPad などのモバイル端末を熱心に使い続けてみました。この短い経験からも、ユビキタス社会が否応なくしかも急速に接近しつつあることが感じられます。電子化による紙からの離脱がこのことを可能にしているのです。

しかし、先に述べたように、理解するためには理解の基礎となる能力や知識が必要で、そのためには学習が必要です。ユビキタス社会が到来し、誰でもが人類共有の「全知識集合」にアクセスできるとしても、私たちはあくまでも自分自身の学習の成果に応じてしかその恩恵を享受できません。ユビキタス社会の「いつでも、どこでも」の達成は技術的、社会政策的課題といえましょうが、「だれでも」には時代を問わず人類が果たさなければならない、学習という課題がつきまとうのです。知識の獲得と新しい知識の創出のための教育と訓練の場の必要性はこれからも変わらないでしょう。しかし、ユビキタス社会はこの学習・教育の場や方法に対して大きな変化をもたらすに違いありません。大学の教師はもはや教科書的知識の単なる受け売りの伝達者ではあり得ないでしょう。気が利いた学生ならワンクリックで呼び出せるような知識を、わざわざ講義として話す必要などどこにあるのでしょうか。すでに新しい学習と教育のかたちの模索が始まっているようですが、大学の関係者は誰もがそのような模索に積極的に関わってゆく必要があると思われまふ。

このごろ私はラファエロの「アテネの学堂」という絵をパソコンの背景画像にして絶えず眺めています。大勢のギリシャの哲人と弟子たちが、思い思いの姿で対話に夢中になり、あるいは思索に耽っています。中央では自著を携えたアリストテレスがプラトンと歩きながら対話をしています。右下ではユークリッドらしき人物が若者を相手に石版を使って幾何学を説いています。この絵を見ながら私はついアリストテレスやユークリッドが、Kindle や iPad を持っている姿を想像してしまいます。対話と思索が古代ギリシャの学問的繁栄の基礎にあったとするならば、ユビキタスな環境における対話と思索の場に立つ現代の若者たちは、プラトンやアリストテレスよりもはるかに有利な立場に立って、これからの学問的繁栄に貢献できるのではないのでしょうか。これからの大学図書館はしっかりと将来を見据えて、新しい時代の教育・学習および研究支援体制を創出する必要があります。そしてその一環として、私は本学の図書館がユビキタスな環境を備えた上で、アテネの学堂のような場にもなればと切に希望しているのです。

上に述べてきたことはあるいは電子化礼賛に聞こえるかもしれません。しかし、私は紙の書籍の価値、長所も十分に認識しています。手軽に電子情報が手に入る一方で、だからこそ図書館にある「実物の書物」の価値が、ますます高まるかも知れないのです。ラファエロの絵の奥の殿堂に、数十万冊の書籍の開架スペースが広がっている光景を思い浮かべていただきたいと思ひます。

図書館ホームページを活用しよう

図書館のホームページは“もう一つの図書館”です。パソコン上から図書館のいろいろな情報を得られるだけでなく、今話題の電子書籍等の電子情報を得ることができます。

今回は図書館ホームページから利用できるサービスを紹介します。電子情報と図書館にある資料とをうまく活用してください。

京都女子大学図書館ホームページ
<http://www.kyoto-wu.ac.jp/library/index.htm> へアクセスしてください。

■図書館カレンダー

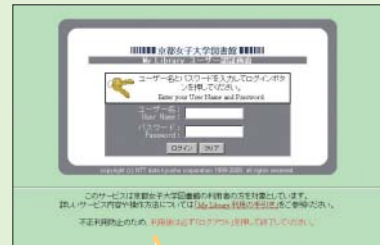
開館日と開館時間を確認してください。臨時閉館等の場合は「■図書館からのお知らせ」に掲載します。

※図書館カウンターに「ポケットカレンダー」を置いています。カードサイズで携帯に便利です。ご自由にお取りください。

■My Library

本学専任教職員・本学学生限定のWebサービスです。OPAC画面上部の【My Libraryログイン】からもアクセスできます。【My Libraryログイン】画面に、情報システムセンターから発行された「ユーザー名」と「パスワード」を入力すると、自分のサイト「My Library」が利用できます。

【My Libraryログイン】画面



主なサービス内容

- 図書館からのお知らせ
- あなたへのお知らせ …… 延滞状況、取置状況、貸出停止状況等が表示されます。
- 貸出・予約状況確認 …… 現在の状況が表示されます。
- 貸出履歴一覧 …… 自分の貸出履歴が表示されます。

返却忘れの図書がないか確認できて便利です。

京都女子大学 図書館
 Kyoto Women's University Kyoto Women's Junior College Library

■ 図書館からのお知らせ
 11/04/01 新入生の皆さんへ
 →バックナンバー

■ 図書館カレンダー
 ■ 2011年4月開館日程

						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	

 ■ 2011年5月開館日程

1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30	31					

 □ 9:00-20:00 ■ 休館
 ● 9:00-17:00 ● 9:00-17:00
 ● 10:00-15:00
 ☆ 年間開館日程

■ 情報検索
 ■ 京都女子大学蔵書検索(OPAC)
 ■ データベース
 ● 国内文献情報
 ● 海外文献情報
 ● 法令・判例
 ● 新聞記事
 ● 辞書・事典 ほか
 ■ 電子ジャーナル
 ● 電子ジャーナルポータル(雑誌)
 ● 日経BP、東洋経済、日本近代文学館 ほか
 ■ 電子ブック
 ● GVR、ScienceDirect、NetLibrary
 ■ My Library (学内者限定Webサービス)
 貸出・予約状況確認等

■ 利用案内
 ● 図書館概要
 ● 本学学生用利用案内
 ● 本学教職員用利用案内
 ● 本学園卒業生、旧教職員の方
 ● 学外の方
 ● アクセス
 ■ 図書館利用講習会
 ■ 図書館発行物
 ● ライブラリーニュース
 ● 図書館利用案内
 ● 資料の探し方
 ■ 資料紹介
 ● 個人文庫・コレクション紹介
 ● 京都女子大学研究叢刊
 ● 京都女子大学紀要一覧
 ● 論文本文へのリンク一覧
 >> 国立情報学研究所 CiNii

■図書館からのお知らせ

図書館からの最新のお知らせを掲載しています。図書館資料展覧の日程等も、ここでお知らせしています。

■利用案内

図書館の利用案内です。冊子版「図書館利用案内」も活用してください。

■図書館利用講習会

図書館の利用やデータベース等の使い方について、詳しく知ってみませんか？利用講習会に参加してください。

■図書館発行物

図書館が発行している冊子「ライブラリーニュース」と「図書館利用案内」を紹介しています。PDFファイルで見ることができます。※「ライブラリーニュース」と「図書館利用案内」は毎年新入生全員に配布しています。※図書館内に「ライブラリーニュース」のバックナンバーから最新号や、「図書館利用案内」今年度版の冊子を置いています。ご自由にお取りください。また、資料探しの参考として「資料の探し方」も活用してください。

■資料紹介

図書館の個人文庫やコレクション等を紹介しています。

■情報検索

ここから「蔵書検索(OPAC)」や、図書館が提供している「データベース・電子ジャーナル・電子ブック」の電子情報を利用できます。詳しくはP.6~8で紹介しています。

図書館の電子情報を活用しよう

図書館が提供している電子情報は、図書館ホームページの「■情報検索」から利用することができます。利用が学内限定(学内のパソコンからのみアクセス可能)のものもありますが、大いに利用してください。

電子情報には、無料で利用できるよう公開されているものと、契約者だけが利用できるものがあります。図書館ではいろいろな分野のデータベース等の契約をして、皆さんが学内のパソコンから利用できるように設定してあります。図書館が契約している主なものを紹介します。

■京都女子大学蔵書検索(OPAC)

図書館が所蔵している膨大な図書資料の情報は、OPACで検索することができます。「キーワード」や「タイトル」等から資料を探ることができる他、探している資料が本学図書館にあるか?どこの本棚にあるか?などの情報を簡単に調べることができます。OPACは学内のパソコンだけでなく、学外のパソコンからも利用できます。

※「図書館利用案内」の冊子でもOPACの使い方を紹介しています。

検索画面は【簡易検索】【詳細検索】の2種類あります。

ここから【My Library】へログインできます。

【新着図書】
【新着雑誌】
【雑誌一覧】
【貸出ランキング】
も資料検索に活用してください。

OPACの詳しい説明は【ヘルプ】を参照してください。

■情報検索

■ 京都女子大学蔵書検索(OPAC)

■データベース

- 国内文献情報
- 海外文献情報
- 法令・判例
- 新聞記事
- 辞書・事典 ほか

■電子ジャーナル

- 電子ジャーナルポータル(雑誌)
- 日経BP、東洋経済、日本近代文学館 ほか

■電子ブック

- GVRL、ScienceDirect、NetLibrary

■ My Library (学内者限定Webサービス)
貸出・予約状況確認等

■電子ジャーナル

■電子ジャーナルポータル(雑誌)

- ・ 学術雑誌(洋雑誌と一部の和雑誌)に掲載された論文の検索と閲覧ができます。

■日経BP、東洋経済、日本近代文学館 他

- ・ 日経BP記事検索サービス:「日経ビジネス」や「日経WOMAN」等の雑誌の検索と閲覧ができます。
- ・ 東洋経済デジタルコンテンツライブラリー:「週刊東洋経済」や「会社四季報」等の雑誌の検索と閲覧ができます。
- ・ 日本近代文学館:明治期の文芸誌「文芸倶楽部」の検索と閲覧ができます。

【電子ジャーナルポータル(雑誌)】画面



■電子ブック

- GVRL、ScienceDirect、NetLibrary についてはP.8で詳しく紹介します。

■データベース

■国内文献情報

- ・ CiNii(サイニイ): 論文情報ナビゲータ、無料一般公開されている論文は学外のパソコンからも利用できます。
- ・ MAGAZINEPLUS
- ・ BOOKPLUS
- ・ 雑誌記事索引集成
- ・ J Dream II: 科学技術文献情報

■海外文献情報

- ・ PsycINFO: 心理系
- ・ PsycARTICLES: 心理系
- ・ MLA: 言語系

■法令・判例

- ・ LEX/DBインターネット: 国内判例の総合データベース 他

※2011年から法令・判例関係のデータベースと電子ジャーナルを多数導入しました。ご利用ください。

■新聞記事

- ・ 聞蔵Ⅱビジュアル: 朝日新聞
- ・ ヨミダス歴史館: 読売新聞

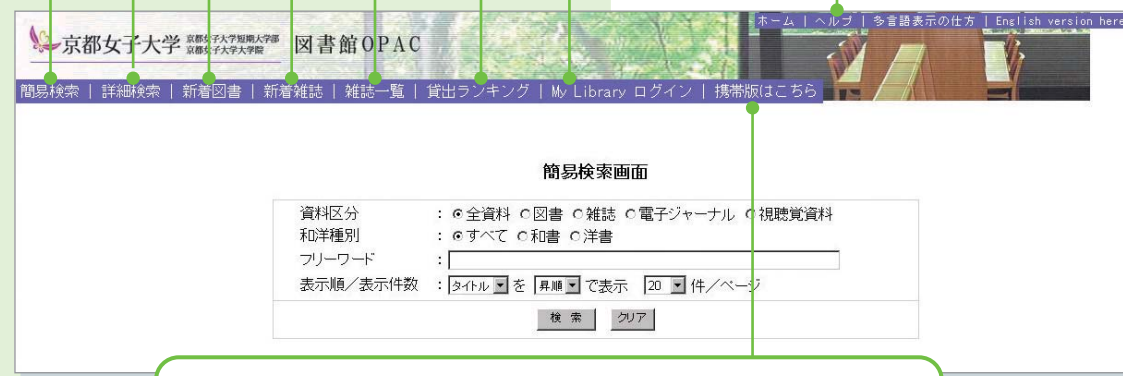
いろいろなデータベースがあります。それぞれクリックしてみてください。

■辞書・事典 他

- ・ ジャパンナレッジ プラスNK
- ・ KOD(研究社オンライン辞書検索サービス)
- ・ EncyKorea(韓国民族文化大百科事典)
- ・ 理科年表プレミアム

データベースとは?

データベースを利用することで膨大な情報の中から自分の知りたい情報を得ることができます。論文のタイトルや概要、論文の載っている雑誌名・巻号が検索できるもの、雑誌記事や新聞記事を検索して閲覧できるもの、数種類の辞書・事典の横断検索ができるものなど、いろいろあります。



携帯電話から利用できる「携帯版OPAC」もあります。
<http://lib.kyoto-wu.ac.jp/mobile/>
通信料(パケット通信料等)は利用者負担になりますのでご注意ください。

☘ 電子ブックを利用しよう

今話題の“電子ブック”ですが図書館のホームページから利用することができます。図書館では平成20年度に導入してから毎年コレクションを増やしています。是非利用してください。(学内LANに接続されたパソコンから利用可)

GVRL (Gale Virtual Reference Library)

洋書の電子ブックの検索と閲覧ができます(ブック間の横断検索も可)。最初の検索結果画面は英語ですが、日本語を含む11ヶ国語に随時翻訳可能です。同時アクセス者数は無制限です。

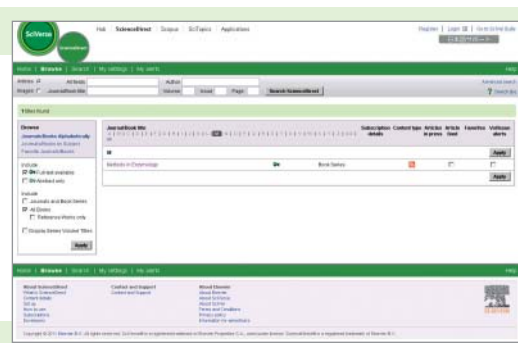
主なコレクション

- ・ヨーロッパ史関連
 - ・アメリカ関連
 - ・アジア系アメリカ作家関連
 - ・教育関連
 - ・ファッション関連
 - ・時事・社会問題関連
 - ・環境学関連 他
- ※平成23年度は心理学関連と建築関連のコレクションを増やす予定です。またヨーロッパ史関連と教育関連のコレクションも増冊する予定です。



ScienceDirect

『Methods in Enzymology』の1955年発行のvolume 1から最新号までの横断検索と閲覧ができます。生物学・分子生物学における重要テーマについての代表的な研究方法をまとめたブックです。同時アクセス者数は無制限です。



NetLibrary

日本語の電子ブックの検索と閲覧ができます(ブック間の横断検索も可)。同一タイトルへの同時接続はできませんので、ブックを利用した後はタイトル右横の[アイテムを閉じる]をクリックしてください。

主なコレクション

- ・紀伊國屋書店コレクション (文学や歴史、芸術、自然科学分野等から101タイトルを集めたコレクション)
 - ・朝倉国語教育講座
 - ・朝倉心理学講座
 - ・朝倉「情報」をよむ統計学講座
 - ・幼児教育関連
 - ・アクセスフリーeBook(洋書3,461冊) 他
- ※平成23年度は英文学・教職・産業・経営学などの分野のブックを増やす予定です。



☘ 図書館資料展観

図書館では本学所蔵の貴重書等を公開するために、毎年「図書館資料展観」を実施しています。平成22年度は展観を2回実施し、来場者へは図書館作成の展観図録を配布しました。いずれの展観も図書館の蔵書を多数展示しました。学内だけでなく学外からも多くの来場者がありました。

平成22年度図書館資料展観「松尾大社景観の変遷」

〈期間: 平成22年10月16日～10月26日 11日間 場所: 錦華殿地階展示室〉
図書館所蔵の資料から、松尾大社が描かれている資料を中心に展示しました。また、松尾大社所蔵の宝物「松尾社御法楽和歌」を特別展示しました。本学で「神道史学会」が開催されたことを記念し、本展観を企画しました。



第10回図書館資料特別展観「町の再生 第四回内国勲業博覧会」

〈期間: 平成22年10月30日～11月25日 27日間 場所: 錦華殿1階・地階展示室〉
明治28年に京都で開催された「第四回内国勲業博覧会」について、関連する資料を展示しました。京都女子学園の100年の歩みと重なる点も考慮して企画しました。



京都女子学園創立100周年記念事業として開催された企画展でも図書館資料が展示されました。

「日本古書籍100大集合」



「一学園の礎を創った三女性展—“心の学園”に咲く花」



平成23年度も図書館資料展観を予定しています。図書館のホームページや掲示板で日程等をお知らせします。是非見に来てください。

和本の姿 - 和本の装訂名称について -

図書館司書課程教授 山中 康行

はじめに

大学の図書館が高校の図書館と大きく異なる特徴の一つには、蔵書に和本が多いということがあります。京都女子大学の図書館も、皆さんが過ごした高校の図書館ではごまれにしか所蔵されていない和本を多く所蔵しています。

では、「和本」とはどのような本をいうのでしょうか。中国の唐本、韓国の朝鮮本、西洋諸国の洋書に対する名称であり、ときには、洋装本に対して使用されることばです。奈良時代から日本で作られ続けてきた和紙に手書きされたままの「写本」と木版印刷された「版本」とをいい、明治中期に近代活版印刷術の本にとって代わられるまでながく続きました。今、我々の身近にある本は洋装本ばかりです。洋装本というのは和装本に対する用語です。では、和装本とはどのような装訂の本のことを言うのでしょうか。

錦華殿で催される展覧会や、博物館、美術館、郷土資料館で和本を鑑賞する機会も多くあります。解説(書)には、「粘葉装」・「綴葉装」・「列帖装」・「大和綴」・「結び綴」・「袋綴」など展示されている和本の装訂方法を示す用語が付記されています。でも、困ったことにこの用語が、「同装異名」・「異装同名」等の問題があり統一されてはいません。

和本の装訂方法

粘葉装(でっちょうそう)、綴葉装(てっちょうそう)、列帖装(れつじょうそう)、大和綴(やまととじ)、結び綴(むすびとじ)の説明として使用されている和本の外装を示したのが図1～図3です。

和本の装訂を、加工材料(糊、糸、紐)と料紙の加工方法(折り方、重ね方、糸の綴じ方)により区別して説明します。図に示した和本の装訂製作工程は概ねつぎのような手順でつくられます。

図1：料紙を一枚ずつ、料紙の長いほうの辺の中央から二つ折りにして、その折目を右側にそろえ、各料紙の外側(山折の部分)を数センチの幅で上から下まで糊付けをしてつぎつぎに貼りあわせて冊子にします。

図2：料紙を複数枚重ねてから料紙の長いほうの辺の寸法の中央から二つ折りにして、それをいくつか重ねた後で、折目を右側に揃え、折目の背のところ(山折部分)に切れ目(穴)を四箇所あけ、糸で綴じます。

図3：料紙を重ね(重ね方は、折らずに一枚ずつ重ねてもよいし、一枚ずつ料紙の中央から折った料紙を重ねてもよい。このとき折目が左右どちらにきてもよい。)、表紙の右側の折目から数センチのところ(四つまたは八つ)をあけて、糸または紐等で綴じます。

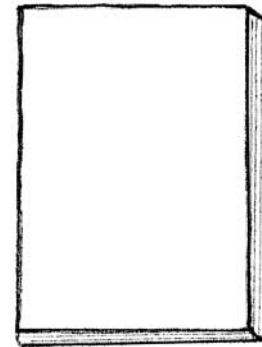


図1

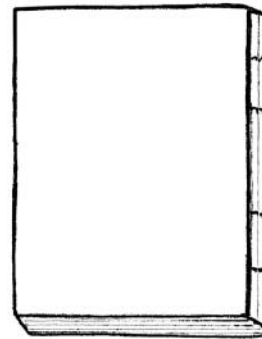


図2

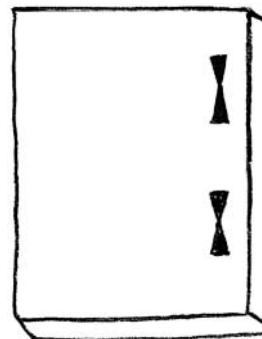


図3

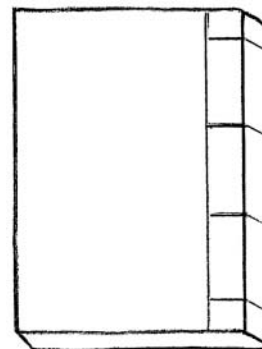


図4



△妙抄口傳(中巻) 1308年写 (請求記号:KN186.1/My/1)



△伊勢物語 1591年写 (請求記号:913.32)



△きやうと：名所と美術の案内(上・下巻) 1895年 (請求記号:291.62/Ma91/1~2)



△はちかつき 江戸前期写 (請求記号:913.49/H11/1~3) 奈良絵本



表1 装訂名称の「同装異名」・「異装同名」一覧

	図1	図2	図3
1932年 田中 敬 『粘葉考 —胡蝶装と大和綴—』	粘葉・胡蝶装	大和綴	打抜綴、新大和、房綴、近代的大和
1934年 日本書誌學會 『制定術語』			大和綴
1972年 川瀬一馬 『日本書誌學概説 増訂版』	粘葉	綴葉	大和
1974年 橋本不美男 『原典をめがして —古典文学のための書誌—』	粘葉装	列帖装 (綴葉装)	大和綴
1976年 長澤規矩也 『古書のはなし —書誌学入門—』			大和とじ
1977年 山岸徳平 『書誌学序説』	粘葉装 (胡蝶装)		
1991年 藤井 隆 『日本古典書誌学総説』	粘葉装 (胡蝶装)	綴葉装 (綴帖装)	大和綴
1995年 中野三敏 『書誌学談義 江戸の版本』	胡蝶装粘葉装	胡蝶装大和綴	結び綴じ
1998年 廣庭基介・長友千代治 『日本書誌学を学ぶ人のために』	粘葉装	綴葉装	大和綴
2002年 藤本孝一 『古写本の姿』	粘葉装	綴葉装	粘葉装大和綴 綴葉装大和綴
2003年 杉浦克己 『改訂版 書誌学』	粘帖装 (胡蝶装)	綴葉装 (列帖装) (襲ね綴じ)	大和綴じ
2003年 国文学研究資料館 『和書のさまざま』	粘葉装	列帖装	結び綴
2006年 榎節夫 『書庫渉獵 —書写と装幀—』	粘葉装 (胡蝶装)	列帖装 (綴葉装) (大和綴)	大和綴 (結び綴)
2008年 新村 出 『広辞苑 第六版』	粘葉装 (胡蝶装)	綴葉装 (列帖装)	大和綴じ (結び綴じ)

著作物の発行年、著者、書名の順に示した。

関連書籍の記述から

和装本の解説書11点と、日本書誌学会の見解、国文学研究資料館展示品解説、広辞苑の記述による和装本の装訂名称(粘葉装、綴葉装、列帖装、大和綴、結び綴)の定義を、図1～3の装訂方法と対応させて、著作物等の発行年順に、著者・書名を一覧表(表1)で示しました。同じ装訂に、異なる名称が付与されていることや、同じ名称が人により示す装訂方法が異なるなど、「同装異名」・「異装同名」がよくわかると思います。

差異をまとめますと、①「胡蝶装」の名称を、図1の装訂名とする見解と、図1と図2の総称とする見解があります。②「大和綴」の名称を、図2または図3の装訂名称とする見解と、図2と図3の総称とする見解があります。図2の装訂名称を「綴葉装」とする見解は、1934年に日本書誌学会の見解に基づくものです。この用語は日本書誌学会が制定した「新造語」です。国文の人たちの間では、「列帖装」という名称がすでに用いられていました。長く続いている混乱の一つに、装訂の名称が、国文学専攻の人たちと、書誌学専攻の人たちで異なるということです。同じ装訂であっても、解説を書いている人の専門分野により使用する名称が異なるという事実があります。

このほかに「袋綴(ふくろとじ)」という装訂名称が使用されることがあります。これは、料紙を二つ折りにして、折目の反対側を綴じる方法です。一般には、四ツ目綴(図4)の装訂名称として使用されていますが、料紙の折り方を示していますので、図3の装訂にも使用できる装訂です。図3の装訂方法は、図1、図2、袋綴のどの装訂にも使用できる装訂方法なのです。「粘葉装大和綴」・「綴葉装大和綴」・「袋綴四ツ目綴」といった複合の装訂名称を付与することを提唱する人もいます。鑑賞者には、解りやすい表示方法だと言えます。

あとがき

中学や高校のとき習った今昔物語や枕草子、源氏物語など江戸時代の人たちはカットに示した装訂の本で読まれました。展示物の解説書や、文献の説明文を読むとき、説明文の装訂名称が上記の図のどれに該当するのかを確認することによって、解説文の理解も正確に理解できるのではないのでしょうか。そうすれば、和本の姿をみて、内容が推測できるようになるなど、より深い和本との付き合いが始まるきっかけになると思います。

レファレンスPOP これからは見える図書館

図書館司書課程専任講師 桂 まに子



ここに並べた本のタイトルをご覧ください。近所の書店ではなかなか見かけることのない「事典」「辞典」という名前のついた本が多いことに気づくでしょう。さらにじっくり見ていくと、百科事典や国語辞典のように一般的な事典(辞典)だけではなく、『家紋大図鑑』『京都大事典』『官公庁事典』『いけばな総合大事典』『日本歌謡辞典』というように、専門分野に特化したユニークな事典(辞典)もあります。

これらは本学の図書館が所蔵しているレファレンスブック(参考図書)の一部ですが、調べる目的に応じて辞書や事典を使いこなしている学生は残念ながら少数派でしょう。図書館員の資格取得を目指す司書課程の受講生でも、演習の授業で初めてレファレンスブックと対面したという学生が少なくありません。自主的に調べる機会の多い大学生には、大学図書館のレファレンスブックをレポートやゼミ発表、卒業論文の執筆に役立ててほしいと願っています。そのためには、図書館側にも、レファレンスブックとは何か、どのような種類や特徴があるのか、どのように選択して利用すると良いのかという情報を利用者に伝える努力がこれまで以上に必要です。

そこで、2010年度司書課程のレファレンスサービス演習の筆者が担当する授業で、図書館のレファレンスコレクションを可視化するという新しい試み「レファレンスPOP」に挑戦しました。これは、筆者が考案・命名したのですが、受講生が自分でレファレンスブックを選び、その特徴を小型カードで紹介したレファレンス・ツールです。POP(Point Of Purchase)

(advertising)(購買時点広告)の略称で、通常は売り場で商品の説明を補助する広告ツールを指します。顧客の購買意欲を高めて購買決定に大きな役割を果たすため戦略的にPOPを採用する販売業も多く、書店で平積み本の近くに添えられている手書きのメッセージもその一例です。図書館の場合、商用目的ではありませんが、レファレンスブックの説明を補助し、利用する動機づけとなる点で類似するため、作成したカードを「レファレンスPOP」と名付けました。まだ実験段階ではありますが、7.5×12.5cmの小さなカードからレファレンスブックの使い方や面白さが発信できます。

レファレンスサービス演習では、受講生は大学図書館を使って様々な演習を行なっています。例えば、各分野のレファレンスブックの中から1冊選んでその特徴や構成を授業内で発表する演習・言葉・物・事柄・人物・地名などに関して与えられる例題に図書館のレファレンスブックを用いて回答する演習を行ないます。さらに、受講生が利用者の立場になって質問を考え、ペアを組んで互いの質問に回答する演習、あるテーマについて調べるための資料・情報(レファレンスブック、図書、雑誌、新聞、ウェブなど)を総合的に案内するパスファインダー演習などを通して、図書館員の仕事を模擬体験します。

このような演習に加え、2010年度は、図書館の利用者にレファレンスブックの便利さや魅力を伝えるツールとして「レファレンスPOP」の作成に取り組んだ訳です。受講生は授業中に発表したレファレンスブックのPOPを作成します。その際、本の使い方や特徴を自分の言葉で分かりやすく表現させるように心がけました。出来上がったレファレンスPOPは大学図書館の一角を借りて展示し、大学図書館のレファレンスコレクションの可視化にも微力ながら貢献しました。授業での成果を実際の図書館から発信したことは、受講生にとって貴重な経験になったことでしょう。

「レファレンスPOP」展示風景



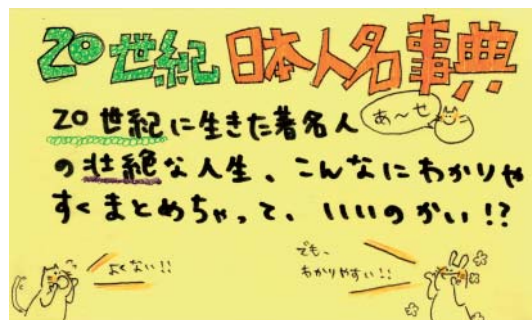
図書館本館5F入口にて
レファレンスサービス演習 学生発表
2010年11月12日~2011年1月20日

総記、百科事典



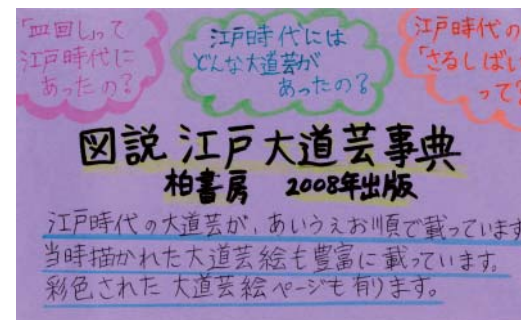
『総合百科事典 ポプラディア』(全12巻)
(ポプラ社、2002)
請求記号：031/P81/1~12

歴史



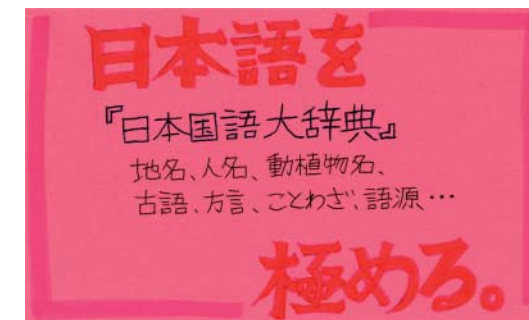
『20世紀日本人名事典』(全2冊)
(日外アソシエーツ、2004)
請求記号：281.033/N71/1~2

芸術



『図説 江戸大道芸事典』
(柏書房、2008)
請求記号：779.7/28

言語



『日本国語大辞典』(全14巻)
(小学館、2000-02)
請求記号：813.1/N71/1~14

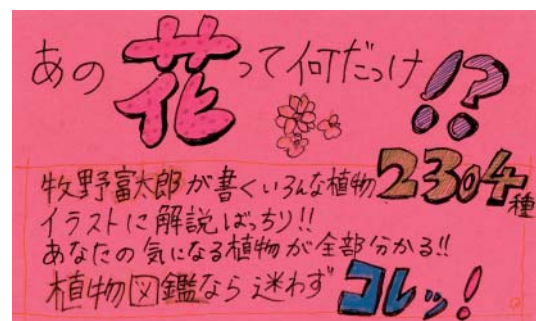
展示では、冒頭の背表紙写真のまわりに32枚のレファレンスPOPを並べました。今回ここに掲載した8枚を眺めると、イラスト入りやカラフルな色使いのもの、シンプルに文字のみのものというように、カード一枚一枚に個性があります。また、手書きのPOPにはインパクトとぬくもりが感じられ、他の京女生にもレファレンスブックを使ってほしいという書き手の思いが伝わってきます。

展示期間にPOP投票を実施したところ、「実際に本を手にとってみたくなったPOP」の第1位に『完訳 世界文学にみる架空地名大事典』(P.17左下)が選ばれました。「ムーミン谷がどこにあるか知っていますか?」という問いかけに引きつけられ、読んでみたくなったという意見が多く寄せられ、質問調のメッセージにはレファレンスブックへの興味を高める効果があることが分かりました。

ここまで、レファレンスブックを利用するための補助ツールとしてレファレンスPOPを紹介してきましたが、それはみなさんの学びを支援するツールにもなりうると考えています。レポートや卒論を執筆するときなど、何か調べる目的が生じた際にネット検索に頼るのではなく、POPを思い出して「レファレンスブックも使ってみよう」と行動を起こすことで、学習活動の幅が広がるはずです。

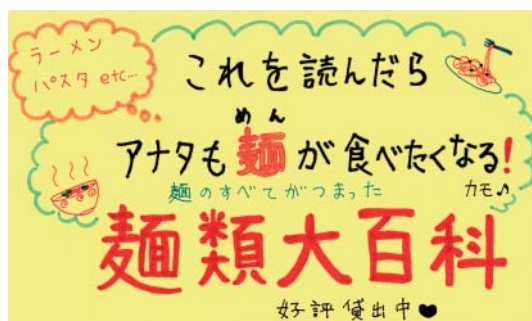
図書館のレファレンスブックに光を当てたレファレンスPOPはいかがでしたか。今後も授業を通じて様々なPOPを作成し、「見える図書館」となるための仕掛けや工夫を提案していきますので、ご期待ください。POPを作成してくれた2010年度レファレンスサービス演習の受講生一同とPOPへの理解を示してくださった図書館員の皆さまに感謝申し上げます。

自然科学



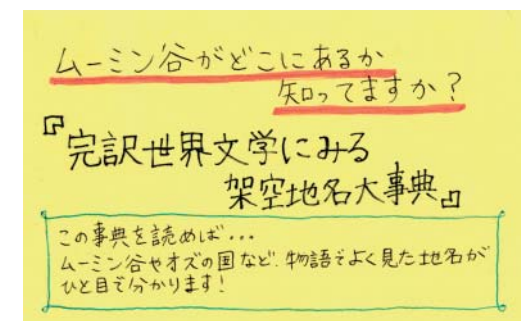
『原色牧野植物大図鑑』
(北隆館、1997)
請求記号：470.38/Ma35

産業



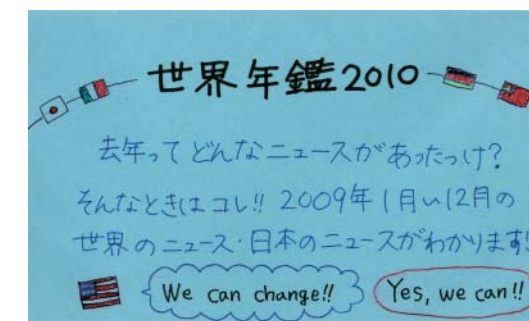
『麺類百科事典』
(食品出版社、1984)
請求記号：619.39

文学



『完訳 世界文学にみる架空地名大事典』
(講談社、2002)
請求記号：903.3/Ma43

年鑑



『世界年鑑 2010』
(共同通信社、2010)
請求記号：059/Se22/2010



KWU Library News 発行／京都女子大学・京都女子大学短期大学部 図書館

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35番地

TEL: 本館 075-531-7070 / 分館 075-531-9010 / 雑誌室 075-531-7069

<http://www.kyoto-wu.ac.jp/library/index.htm>

平成23年3月発行